

令和 5 年度 東京都立蔵前工科高等学校 定時制課程 学校経営報告

校長 鈿持 利治

本校は、選択授業及び資格取得など、生徒の興味・関心を引き出す教育活動を通じて、基礎・基本を徹底し、生徒一人一人の個性を伸ばし、工業に関する専門的な知識を確実に身に付けた社会の一員として自覚があり、様々な分野に高い探究心をもった人材の育成を目指す。

1 今年度の取組状況と自己評価

(1) 学習指導

- ① 選択授業及び資格取得など生徒の興味・関心を引き出す教育活動を行い、基礎・基本を重視した分かりやすい授業を展開することで、中途退学者 0 名を達成した。
- ② 資格取得については、計算技術検定 3 級 2 名、プレゼンテーション作成検定試験 2 名、小型車両系建設機械 7 名、建設業経理事務士特別研修 1 名、2 級建築施工管理技術検定 1 次合格 1 名の結果を得ることができた。引き続き、資格取得を奨励し、積極的に資格取得に挑戦する意欲の醸成を図る。
- ③ 例年、実施している課題研究発表会については、生徒一人一人の個性を活かした研究を全ての生徒が ICT 機器を使用して実施した。1 年間のものづくりや研究成果を発表することで、主体性を伸ばし、学習への成就感・達成感を実感させることができた。
- ④ 学校外における学修の単位認定を活用し、生徒の学ぶ意欲を向上させることができた。
- ⑤ 三修制について、希望する生徒が目的意識や見通しが明確にもてるように、規定の見直しや説明会、事前指導等の改善を行った。
- ⑥ 外部と連携については、Microsoft Office365「Teams」を活用したオンライン会議など ICT 化を促進した。
- ⑦ 図書館の有効活用を図っているが、読書活動の成果とまでは、至っていない。

(2) 進路指導

- ① 1 年生からの計画的・段階的なキャリア教育を推進の結果、卒業生 4 名の進路状況は、1 名が進学、3 名が就職で、3 年連続進路決定率 100% を達成することができた。次年度も引き続き進路決定率 100% を目指す。
- ② 生徒への進路情報提供と進路意識の啓発を目的に、ハローワーク職員と連携して、進路説明会及び面接練習を実施した。
- ③ 卒業生を対象に、進路指導部担当者による「高校生のライフプランニング」の活用し、就職先の離職や進学先での退学などを安易にさせないための指導を行った。
- ④ 就職支援ナビゲーターや東京しごとセンターなど、学校外部の指導者による進路行事を行った。

(3) 生活指導

- ① 担任と生活指導部等とが連携を図り、支援が必要な場合には随時面談を実施した。また、スクールカウンセラーによる全員面接や1学年生徒対象にグループエンカウンターを実施した。
- ② 教職員は、相互に協力しながら体罰防止に努め、生徒には「いじめをしない・させない」指導を繰り返し行ったことで、体罰・いじめを未然に防止することができた。
- ③ 登校時に生徒昇降口において、生徒一人一人に対して、挨拶、健康観察、声掛けを毎日実施した。
- ④ 多様な学習歴をもつ生徒に対し、信頼関係の構築及び個別の課題を明確にするために面談を重視し、年間3回面談週間を設け実施した。
- ⑤ 毎学期の始業式、終業式において、相談センター連絡先、命の大切さ・ストレスへの対処方法などについて講話を行い、心の健康の保持に係る教育、自殺防止等、生命を尊重する教育を推進した。

(4) 特別活動・部活動

- ① スポーツ大会や蔵工祭などの生徒が主体となる行事については、感染症対策を十分に施し、蔵工祭では、飲食店に制限を行ったが、一般公開を実施することができた。
生徒会役員選出及び生徒総会では、生徒が積極的に運営を行うことで、生徒会活動、集団活動に係る達成感や満足感が得ることができた。
- ② 生徒数の減少により、部活動の実施や大会参加が難しい状況ではあったが、テニス部が出場をした。また、文化部では、器楽部が熱心な活動を行っていた。(部活動加入率86%)
- ③ 今年度もスポーツ大会を6月に実施し、感染症対策に配慮しつつ、生徒が楽しめる競技を考えることで、スポーツ大会を盛り上げることができた。
- ④ 定時制の教育活動時間帯が夜間のため、地域との連携・交流が困難な状況である。定時制活動時間に可能な地域美化活動や地域散策活動など、地域活動を模索した。
生徒会活動では、生徒一人一人に役割を与え、司会進行や発表する機会を意図的に設け、集団活動の充実や社会性の育成を図った。
- ⑤ 浅草消防署と連携した自衛消防訓練を実施した。安全講話や通報訓練・消火器による消火訓練を生徒全員が体験した。

(5) 健康づくり

- ① 5月に蔵前警察署の協力で、交通安全教室を実施した。自転車のシミュレーターを使用して、交通ルールの遵守と正しい交通マナーを体験し、交通安全への意識の向上を図った。
- ② 学校保健計画を策定し、年間を通して生徒の学校保健活動を充実させた。また、感染症対策に係る指導を継続し、検温・体調確認や手洗いの励行、給食時一方向の着座と黙食を徹底することにより、集団感染リスクへの低減を図った。
- ③ 高温多湿の時期は熱中症対策が必要であるため、工場扇を計画的に購入している。また、冬季には加湿器を教室に設置するなど、健康・安全に留意した環境整備を行った。

(6) 募集・広報活動

- ① ホームページに学校紹介動画を掲載するなど、コンテンツの充実を図り、学校の様子について情報発信を行った。
- ② 都立高校合同説明会や匠の技の祭典、都立工科高校ドリーム・フェスタなどに参加することにより工科高校の広報活動を行った。

(7) 学校経営・組織体制

- ① ICT機器を活用した授業は、それぞれの教科・科目で実施することができた。
また、1学年の生徒には、一人一台端末を活用した、授業への対応や Microsoft Office365「Teams」を活用した授業などの授業研究を行った。
- ② 教職員の共通認識を図るとともに、円滑な学校経営に努めた。
- ③ 個人情報保護に関する研修や注意喚起を定期的に行った。
- ④ 特別支援教育委員会では、スクールカウンセラーや外部機関の助言をもとに、東京都教育委員会にYSWの派遣を依頼し、進路活動の支援を行った。また、家庭からの協力が乏しい生徒については、こども家庭支援センター・保健センター等の協力得て医療機関への相談をアドバイスするなどして、特別支援教育を組織的に行った。
- ⑤ 会議資料を工夫し要点をまとめることで、会議の効率化を図った。学校閉庁日の活用や定時退庁の推進など、ライフ・ワーク・バランスの向上を図り、「月当たりの定時外在校時間が60時間を超える」職員は0名であった。
- ⑥ 全日制課程と定時制課程の職員の連絡会を定例会として実施することができなかった。本校は、全定分掌連絡会の概念がなく、三修制の授業や休憩時間等で時間調整が難しい状況である。
- ⑦ 新学習指導要領や本校のスクール・ミッションを踏まえ、グランドデザインを参考にしながら、スクール・ポリシーの実現に努めている。

(8) 経営企画室

- ① 経営企画室の業務を通して、学校経営計画の実現に向けて取り組んだ。
- ② 自律経営推進予算については、適正かつ計画的な執行に取り組んだ。また、一般需用費のセンター執行率については50%で前年度より0.5ポイント下回った。次年度に向けて、学校とセンターの適正な執行割合について検討する。
- ③ 工場扇の購入やHR教室に加湿器を設置するなど、感染症対策に配慮した学習環境整備を行った。

2 成果と課題

感染症防止対策に取り組みながら、学習の基礎・基本を重視して基礎学力の定着を図るとともに、資格取得指導に努め、学習意欲の向上を目指す。

生徒数の減少により、学校行事の実施が厳しい状況の中、スポーツ大会や文化祭の開催内容を工夫して、学校行事を実施した。

セーフティ教室では、警察官指導の下自転車シミュレーターを使用して、自転車の安全な乗り方について指導を受けた。

生徒、保護者、教員に行った学校評価アンケートは概ね肯定的な回答が多かったが、

「読書活動がさかんで、図書館の利用者も多いと思う。」や「生徒が地域行事に参加するなど、地域との交流を活発に行っていると思う」の項目については、生徒・保護者・教職員の半分近くが否定的な回答が多かった。

G I G Aスクール構想の実現に向けて、高等学校における「一人一台端末」の活用が2年目を迎え、オンライン授業の実施やI C T機器を使用した授業、部活動での使用等あらゆる場面での活用が期待されていたが、十分な活用とまでは至らなかった。

これらの成果・課題を踏まえ、授業力の向上を図るため、教職員の研修や情報交換を実施する。また、以下に示す取組を引き続き行う。

- ・個に応じた丁寧な指導を継続実施するとともに、補講や期末考査前後の補習を行い、授業に取り組む意欲及び基礎学力の向上を図る。
- ・授業規律の徹底や問題行動の未然防止を図る。
- ・生徒のメンタルヘルスケア及び保護者の相談等に対応するため、全員面接の実施を始め、スクールカウンセラー、Y S W、外部機関との連携を一層充実させる。
- ・資格取得を通して、生徒自らが主体的に学ぶ態度を育成する。
- ・ホームページの充実を図り、幅広く本校のP R活動を推進する。
- ・キャリア教育全体計画に従い、H R活動や面談を通して自己の生き方・在り方や望ましい職業観・勤労観を育成するとともに、基礎学力の定着を図り、生徒一人一人が希望する進路の実現を図る。
- ・ものづくりの学習をとおし、興味、関心をもたせ、生徒の自発性、学習への達成感等を得られるように、生徒一人一人に合った指導を行う。
- ・授業との連携を深めて、レポート作成時に図書館を活用し、普段から図書館の利用を促す。
- ・地域の伝統技術の紹介、地域散策など地域に根付いた教育活動の推進を行う。